

# タナコンブル1000Fe

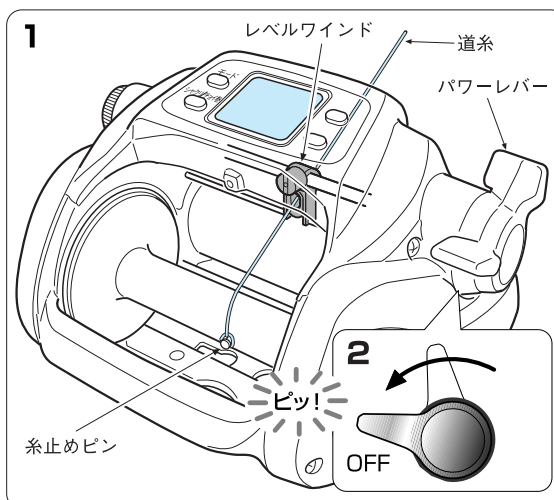
## 道糸入力方法「リールに巻く糸の長さがわかる編」

リールに巻く糸の長さがわかっている時に便利な方法です。  
(PE6号-1000mを巻いて入力することを例にしてご説明します。)

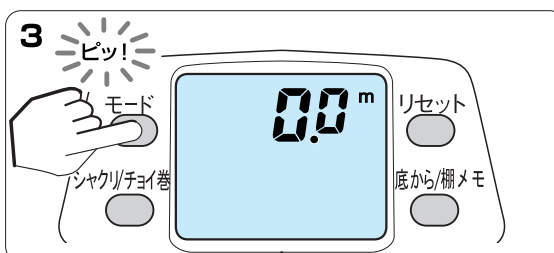
### 1. 道糸をレベルwindに通してスプールに結んでください。

※付属の糸通しピンを使うとかんたんに通せます。  
※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。

### 2. パワーレバーを手前に戻します。



### 3. リールを通电させ表示が **0.0** のときに **モード** スイッチを5秒間押し続けてください。

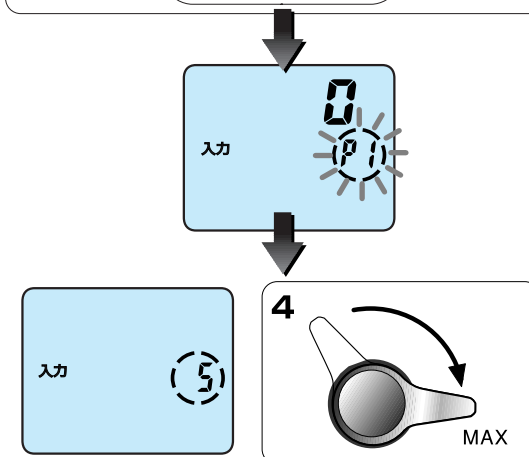


右図のような表示に変わり **P1** が点滅します。

※ドラグがゆるんでいると糸が巻けませんので、しっかりとドラグを締め込んでください。

### 4. パワーレバーをMAXの位置まで倒して道糸を巻きます。

パワーレバーを倒すと **P1** (画面左下の数字) がテンション表示に変わり上のカウンターの数値が上がります。  
パネル左下の数字が5~7になるようにテンションを調整して巻いてください。

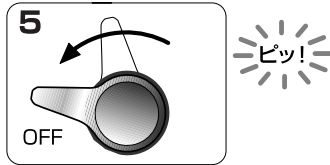


- ・フィンガーガードに糸があたると、リールが傷つくことがあります。糸があたらないようにご注意ください。
- ・屋内で低速・高テンションで長時間(15分以上)かけて糸を巻くと、モーターが異常に過熱し故障の原因になりますので、電動での巻上げを自動で停止します。できるだけ速いスピードで入力を行ってください。また、実釣時には海水等で冷却されますのでご心配ございません。もし停止した場合は、手巻きで巻くか、パワーレバーを一度手前に戻してからMAX側に倒せば再度巻上げられ、入力可能です。

5. 巻き終わったらレバーをOFF位置まで戻します。(アラーム音)

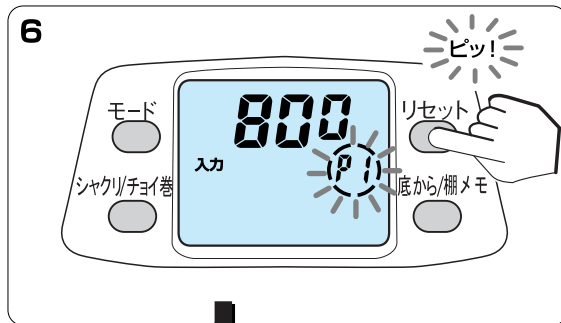


・糸の端を全部巻き込まないようにしてください。手前でパワーレバーをOFFの位置にし、ハンドルで巻いてください。巻き込みますとカウンター誤差の原因になります。



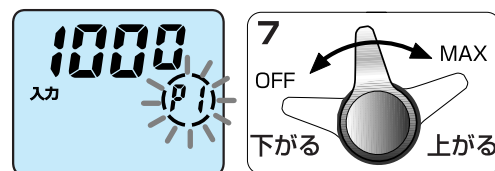
6. **リセット** スイッチを2秒以上、表示が **800** になるまで押してください。

(800は初期値です。)



7. パワーレバーで、道糸の長さをセットします。

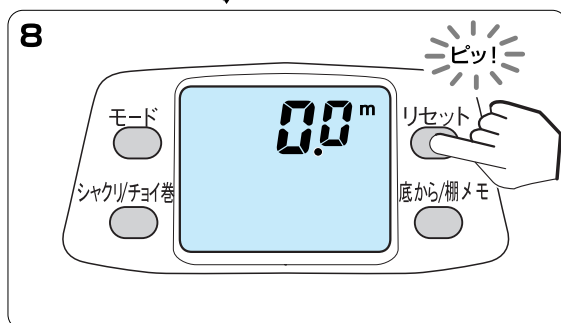
(図は、1000m入力した場合です。)



8. **リセット** スイッチを2秒以上押してください。

アラーム音が鳴り、表示が **0.0** になれば完了です。

※ **Err** になった場合は、**モード** スイッチを押して初めから再度入力をしてください。



# 道糸入力方法「下巻き入力-1」

ただし長さのわかる道糸が100m以上必要です。

1. 下巻をレベルワインドに通してスプールの結び、通電させてください。

※付属の糸通しピンを使うとかんたんに通せます。  
※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。

2. 下巻用の糸を巻きます。

※パワーレバーがOFFの位置にない場合は、一度OFF位置(手前)に戻してから出力してください。

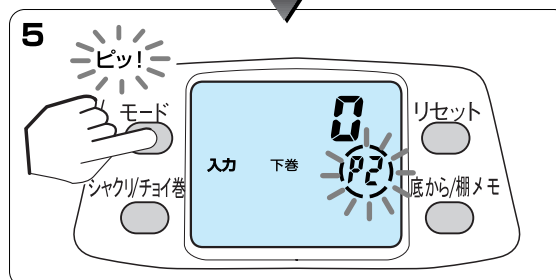
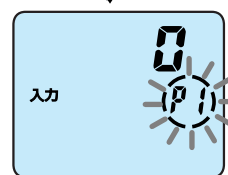
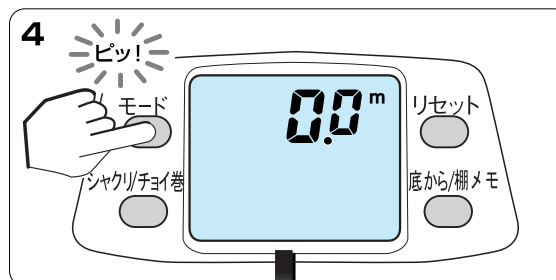
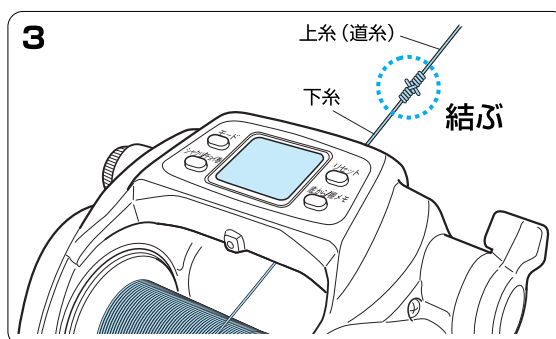
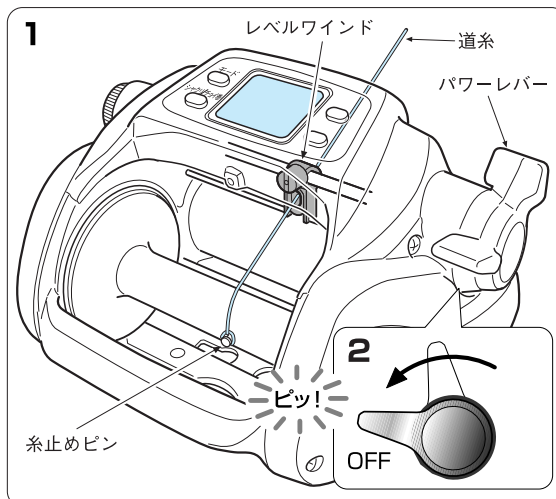
3. 上糸をしっかり結びます。

4. 表示が **0.0** のときに **モード** スイッチを5秒間押し続けてください。

**P1** が点滅します。

5. **モード** スイッチを押して下巻き入力1の画面にしてください。

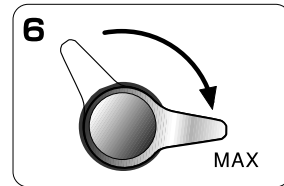
**P2** が点滅します。



**6.テンションをかけて残り100mになるまで道糸を巻いてください。**

パワーレバーを倒すと **P2** (画面左下の数字) がテンション表示に変わり上のカウンターの数値が上がります。

パネル左下の数字が5~7になるようにテンションを調整してください。

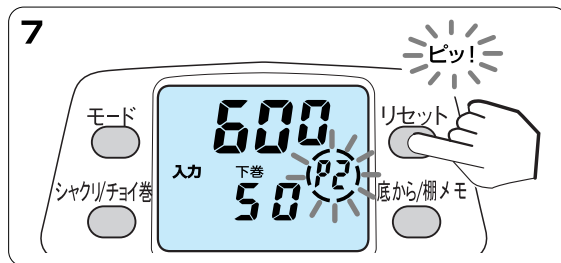


- ・フィンガーガードに糸があたると、糸やリールが傷つきます。糸があたらないようにご注意ください。
- ・屋内で低速・高テンションで長時間(15分以上)かけて糸を巻くと、モーターが異常に過熱し故障の原因になりますので、電動での巻き上げを自動で停止します。できるだけ速いスピードで入力を行ってください。また、実釣時には海水等で冷却されますのでご心配ございません。もし停止した場合は、手巻きで巻くか、パワーレバーを一度手前に戻してからMAX側に倒せば再度巻き上げられ、入力可能です。

**7. リセット** スイッチを2秒以上押してください。

**P2** が点滅し、下のカウンターが **50** になります。上のカウンターの数値は糸を巻くと増えていきます。

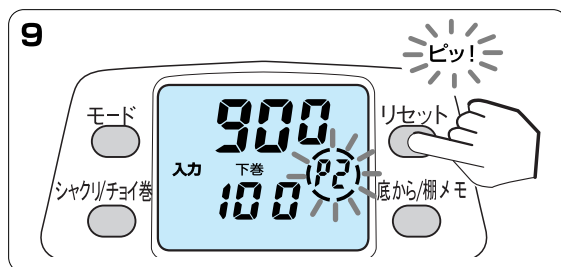
**8.テンションをかけて糸色に注意しながら50mを巻いてください。**



**9. リセット** スイッチを2秒以上押してください。

下の数字が **100** になります。

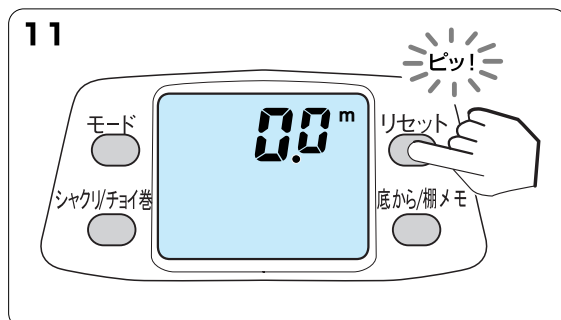
**10.テンションをかけて糸色に注意しながら残りの50mを巻いてください。**



**11. リセット** スイッチを2秒以上押して表示が **0.0** m になり完了です。



- ・糸を全部巻き込まないようにしてください。手前でパワーレバーをMINの位置にし、ハンドルで巻いてください。巻き込みますとカウンター誤差の原因にもなります。



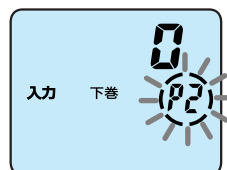
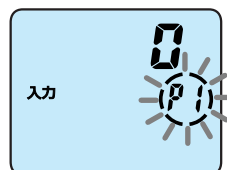
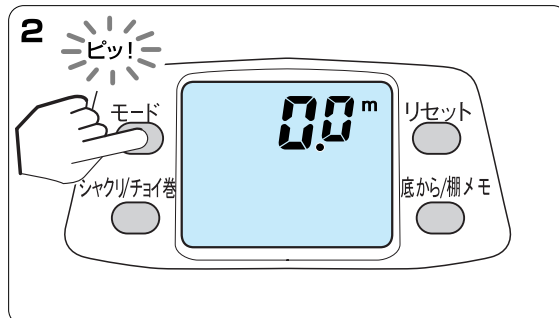
※ **Err** になった場合は、**モード** スイッチを押して始めから再度入力をしてください。

## 道糸入力方法「下巻き入力-2」

道糸を巻き終わった状態から再入力するための方法です。ただし長さのわかる道糸が100m以上必要です。

1. 通電させてください。

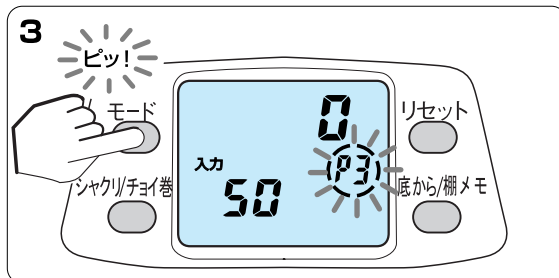
2. **モード** スイッチを5秒以上押して **P1** が点滅します。



3. さらに **モード** スイッチを2回押して、下巻き入力2の画面にしてください。

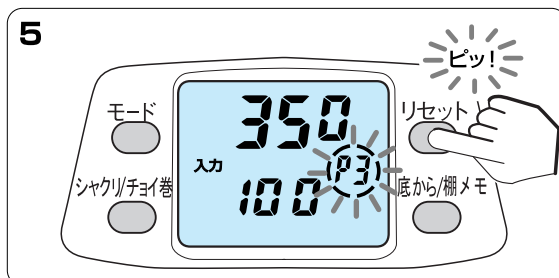
**P3** が点滅します。

4. 糸のマークに注意しながら、50m引き出します。



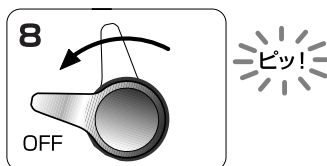
5. **リセット** スイッチを2秒以上押してください。

下の数字が **100** になります。

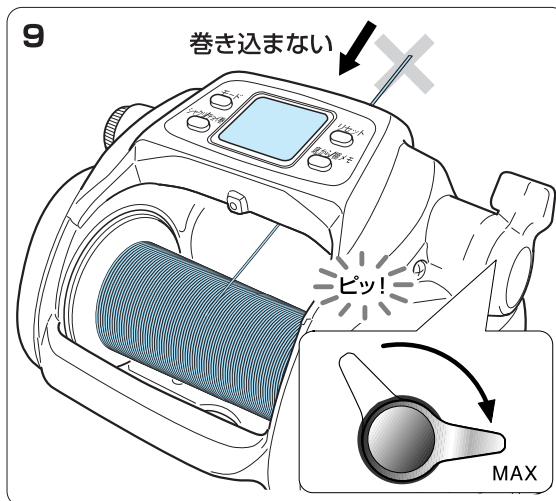


7.速効スケールを外してください。

8.レバーを一度OFF位置まで戻します。  
(アラーム音)

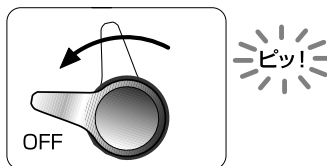


9.再度レバーをMAXまで倒して残りの道糸を巻いてください。



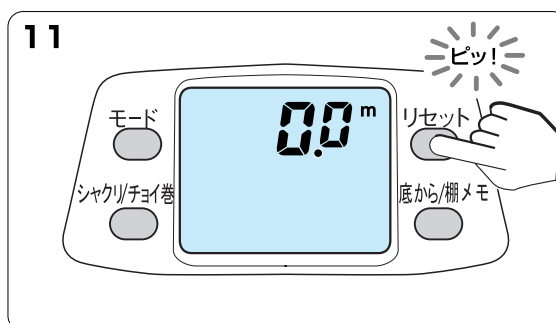
- ・フィンガーガードに糸があたると、糸やリールが傷つきます。糸があたらないようにご注意ください。
- ・屋内で低速・高テンションで長時間(15分以上)かけて糸を巻くと、モーターが異常に過熱し故障の原因になりますので、電動での巻上げを自動で停止します。できるだけ速いスピードで入力を行ってください。また、実釣時には海水等で冷却されますのでご心配ございません。もし停止した場合は、手巻きで巻くか、パワーレバーを一度手前に戻してからMAX側に倒せば再度巻上げられ、入力可能です。
- ・糸の端を全部巻き込まないようにしてください。手前でパワーレバーをOFFの位置にし、ハンドルで巻いてください。巻き込みますとカウンター誤差の原因になります。

10.巻き終わったらレバーをOFF位置まで戻します。  
(アラーム音)



11. **リセット** スイッチを2秒以上押してください。  
アラーム音が鳴り、表示が **0.0** になれば完了です。

※ **Err** になった場合は、**モード** スイッチを押して初めから再度入力をしてください。



6. さらに糸のマークに注意しながら50m  
引き出してください。

7. **リセット** スイッチを2秒以上押して  
表示が **100.0** mになります。

8. 引き出した糸を100m巻き取り完了です。



- ・糸を全部巻き込まないようにしてください。手前でパワーレバーをMINの位置にし、ハンドルで巻いてください。巻き込みますとカウンター誤差の原因にもなります。
- ・この入力方法で入力した場合は100mを超える範囲では、糸長を表示しない場合があります。

※ **Err** になった場合は、**モード** スイッチを押して  
始めから再度入力をしてください。

# 道糸入力方法「スケール入力編」

別売りのスケールを使って入力することもできます。

## 1. 道糸をレベルウィンドに通してスプールに結んでください。

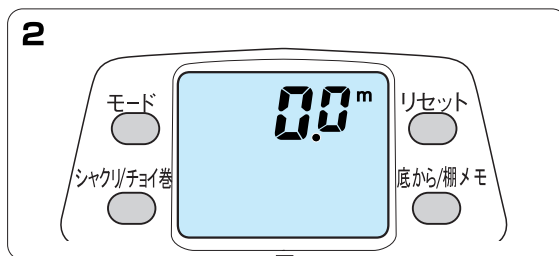
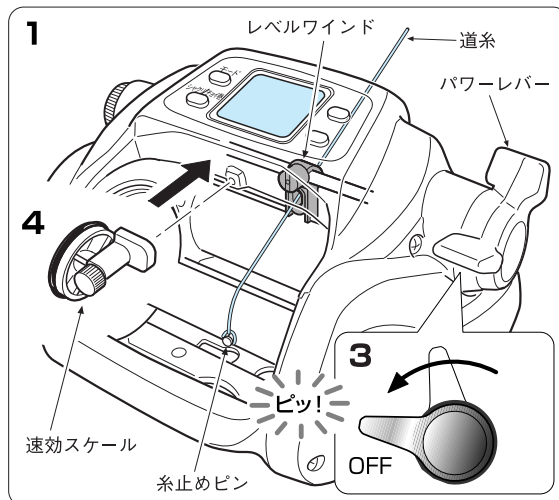
※付属の糸通しピンを使うとかんたんに通せます。  
※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。

## 2. リールを通电させてください。

## 3. パワーレバーを手前に戻します。

## 4. 速効スケール（別売）をリール本体に取付けます。（アラーム音）

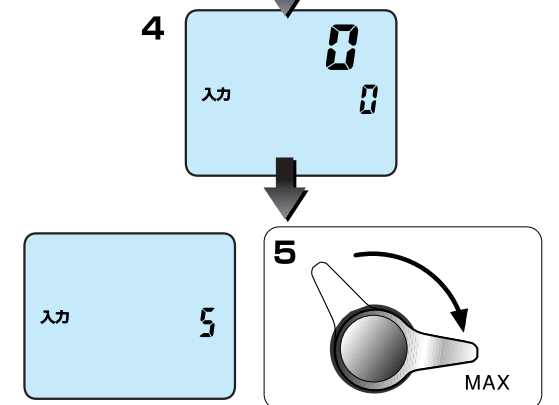
自動的に入力モードになります。



※ドラッグがゆるんでいると糸が巻けませんので、しっかりとドラッグを締め込んでください。

## 5. パワーレバーをMAXの位置まで倒して道糸を巻きます。

パワーレバーを倒すと **P1** (画面左下の数字) がテンション表示に変わり上のカウンターの数値が上がります。  
パネル左下の数字が5~7になるようにテンションを調整して巻いてください。  
糸を巻き取り始めると、上のカウンターの数値が増えていきます。



## 6. 速効スケールに道糸があたるまで巻いてください。

スケールに道糸があたるとローラーがまわり、自動的に巻上げを停止します。

※スケールにあたるまでの巻糸量は、タナセンサーブライツで

6号-740m程度	12号-330m程度
8号-520m程度	15号-230m程度
10号-420m程度	

※テンションによって多少前後することがあります。

